

報道関係者 各位

平成 23 年 10 月 20 日

【照会先】

大臣官房統計情報部社会統計課縦断調査室
室長 福元 俊成
室長補佐 吉川 英樹
(担当) 出生児調査第一係(内線7474)
(代表電話) 03(5253)1111
(直通電話) 03(3595)2413

第9回 21 世紀出生児縦断調査(平成 13 年出生児)の結果

～子どもと同居する家族の、構成の変化に焦点を当てて分析～

厚生労働省では、このほど、同じ集団を対象に毎年実施している「21 世紀出生児縦断調査(平成 13 年出生児)」の第 9 回(平成 22 年)結果を取りまとめました。今回は縦断調査の特性を生かし、子どもと同居する家族の構成の変化、特に「父母と同居」から「母のみと同居」になったケースに焦点を当て、生活に及ぼす影響について初めて分析しました。

21 世紀出生児縦断調査は、2001(平成 13)年 1 月 10 日から同月 17 日と、同年 7 月 10 日から同月 17 日の間に生まれた子どもについて、生活実態や経年変化の状況を継続的に観察するため、保護者に協力を依頼しているもので、少子化対策などの施策のための基礎資料を得ることを目的としています。第 9 回調査では、平成 13 年度の第 1 回から継続して協力が得られた 35,264 人について集計しており、調査時点での子どもの年齢は 9 歳(小学 3 年生)です。

【調査結果のポイント】

1 「母のみと同居」に変わった子どもの母の、就業状況の変化

第 2 回調査(1 歳 6 か月)で「父母と同居」だった子どもが、今回の調査(9 歳)で「母のみと同居」になると、母の「常勤」の割合は 14.5%→35.3%と大幅に増加した。一方、第 2 回からずっと「父母と同居」の子どもの母は 12.8%→13.8%だった。(4 頁 図 2)

2 「母のみと同居」に変わった子どもの母の、負担や悩みの変化

第 7 回調査(7 歳)には「父母と同居」で、今回の調査で「母のみと同居」に変わった子どもの母親について、子育てで負担に思うことや悩みを尋ねたところ、増加がみられたのは

①「子どもと過ごす時間が十分に作れない」(37.9%→42.8%)

②「子どもの病気などのときに仕事を休みづらい」(23.3%→31.2%)

(7 頁 図 4-2)

3 登校日の就寝時間の変化

第 7 回調査と比べると、今回調査では同居する家族の構成にかかわらず、子どもの就寝時間は遅くなっているが、「午後 10 時台」とした割合は、第 7 回から今回までずっと「父母と同居」だった子どもが 20.3%なのに対し、「母のみと同居」に変わった子どもは 26.5%と高くなっている。(12 頁 図 6)

詳細は、別添概況をご覧ください。